

KANSAI*OSAKA

文化力

No.118

2014/SPRING・春



特集 民の力で芸術・文化を支援 「アーティストサポート関西」への期待

川井郁子氏×鳥井信吾氏×堀井良殿

関西における民間アーティストカウンスルの可能性
吉本光宏氏 (株式会社ツッセイ基礎研究所 主席研究員)

企業メセナ最前線
大阪ガス株式会社 社長 尾崎 裕氏

大阪文化考
なみだの浪曲vsオペラの情熱
京山小圓嬢さん・清原邦仁さん

民の力で芸術・文化を支援 「アーツサポート関西」への期待

都市に活気と創造性をもたらすべく、市民自らの手でアーティストを支援し、鑑賞者の裾野を広げる新たな民間組織「アーツサポート関西」が4月1日にスタートする。運営委員長の鳥井信吾氏と、音楽界を中心に広く活躍する川井郁子氏に、芸術・文化のもつ力や若いアーティストたちの思い、それをバックアップする意義について当協会の堀井理事長が伺った。

文化は都市活力の源泉

堀井 今回は、ヴァイオリニストで大阪芸術大学教授の川井郁子さんと、関西経済同友会代表幹事でアーツサポート関西(ASK)運営委員長の鳥井信吾さんをお招きし、関西・大阪の文化力向上やアーティスト支援についてお話を伺います。私は、芸術・文化の振興はまちの活性化に不可欠であり、政策の優先課題にすべきと思っています。海外の例でいえば、フランスのナントは官民連携による文化戦略で深刻な経済衰退から蘇り、スコットランドのエジンバラは、一年を通じて芸術・文化の祭典を展開し莫大な観光収入や雇用を生み出しています。また、イタリア

のベニスで行われる大文化イベント「ビエンナーレ国際美術展」も、世界各国から観光客を呼び込んでいます。海外での演奏活動のご経験も踏まえ、川井さんほどのように感じられますか。

川井 ヨーロッパでは、コンサートであれ、展覧会であれ、観客は単なる受け手ではありません。芸術を楽しんでいる自分こそが主役だという積極的な姿勢を感じます。私がコンサートで「ロマンス」を弾きはじめると、聴いているカップルがとたんに手を握り合い、こちらがあてられるほど。彼らには日本とは違う熱気や華やきがあり、どちらが舞台の人が分

からないくらいです。クラシックは生活に根付いており、路上での演奏を通り過ぎる人が聴き入っている姿を目にすることも多いですね。こうしたムードのなかで、アーティストが育てられているのです。

鳥井 私は、2011年9月にエジンバラフェスティバルを視察しました。世界中からさまざまなアーティストが集結し、それを観るためヨーロッパ中から100万人もの観光客が押し寄せる一大アートイベントです。中世の重厚な佇まいを残すエジンバラ城を中心に、現代の文化・芸術との相乗効果で、町中が文化のエネルギーで溢れている印象を受けました。大阪にも大阪城という素晴らしい歴史遺産があるのですから、これに文化的な要素を結びつけ、活かさない手はないと思います。

堀井 文化が多くの人々を魅了し惹きつけ





川井郁子(かわい いくこ)氏

ヴァイオリニスト、作曲家、大阪芸術大学教授

ることで、まちに生き生きとしたエネルギーが生まれます。川井さんがよく行かれるウィーンも、多くのクラシックファンで賑わっているのでしょう。

川井 ウィーンといえばウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団やザルツブルグ音楽祭など、クラシックファンなら誰でも知っている楽団や音楽祭が数多くあります。感心するのは、それらをアピールするプロデュース力に長けていることで、だからこそ世界中の関心を集めているのだと思います。

芸術・文化が持つ力

堀井 私の知り合いのソプラノ歌手は、東日本大震災の仮設住宅で慰問演奏会をしたとき、聴いていたお年寄りの女性から、「震災で生きていく元気をなくしたけど、こんなに素晴らしい歌声が聴けるなら、これからも頑張って生きようと思う」と言われたそうです。9.11(米国同時多発テロ事件)の直後、瓦礫のなかでひとりヴァイオリンを弾く青年がいて、身内を亡くして悲嘆にくれる人や救助活動を行っている人たちが元気づけられたという話もあります。音楽には、このように人を元気にする力がありますね。

川井 私もウガンダやタイの難民キャンプで、音響装置など何もない屋外の樹の下で演奏したことがあります。多くの人たちが集まって来てくれて、なかでも子どもたちが目を輝かせて

聴いてくれました。極限状態に置かれた人たちが音楽に聴き入るようすを見て、私はヴァイオリンの音色に魅せられた子どもの頃の気持ちを思い出し、逆にこちらが元気づけられるようでした。東日本大震災のチャリティーコンサートでも、お客様は被災地の方々への思いをひとつにして聴いてくださいます。こうした演奏会は、音楽が人の心に届いていることをとくに強く感じますね。

堀井 子どもたちに素晴らしい芸術・文化を体験させることはとても大事だと思います。鳥井さんは文楽などをもっと子どもに見せるべきだとおっしゃっていますね。

鳥井 子ども時代に体験しておかないと、大人になってから急に文楽に親しもうといわれても難しいですからね。日本は明治維新以降、

西洋文化に圧倒されて、大切な伝統文化が忘れられてきたように感じます。とはいえ、全国の幼稚園では今でも「節分の鬼追い(豆まき)」や「ひなまつり」「端午の節句」「七夕まつり」などが行われ、子どもたちは四季折々の伝統催事に触れています。実は古い日本の伝統は、現代の子どもたちにも生きています。日本人には今一度忘れられたように思える日本文化を受け入れる心の準備はいつでもできているのだと思います。

堀井 新渡戸稲造も100年前に同じことを言っています。「一見、西洋文化が幅を利かせているようだが、日本文化は日本人の心のなかにずっと受け継がれている。だからその漂ってくる薫りを生かして今の暮らしを豊かにしていくべきだ」と。

鳥井 バーやレストランもいいですが、やはり居酒屋さんの人気が根強いのは、和風の雰囲気や寛ぎたいという気持ちが根底にあるからでしょう。

川井 私も編曲をするとき、どうしても尺八や和太鼓を入れたくなるときがあります。西洋楽器にはない独特のグルーブ(高揚感)がありますからね。和楽器の音色で心が熱くなるのは、やはり日本人なんだなって思います。そうやって作った曲をカーネギーホールで演奏したときは、想像以上に大きな反響がありました。日本人ならではの世界観があるということで、フィギュアスケートの音楽に使っていただくこともよくあります。

経済力を弱めている遠因

堀井 日本人の細やかな感性は、ものづくりでも活かされています。最近はいノベーションという言葉がよく使われますが、新しいひらめきを得るためには感性も重要です。音楽を聴いたり、絵を観たり、ものづくりや利益追求とは無関係と思えることも、じつは経済発展と関係が深いことに気づくのです。

鳥井信吾(とりい しんご)氏

一般社団法人関西経済同友会 代表幹事
サントリーホールディングス株式会社 代表取締役副社長
アーツサポート関西 運営委員長



オペラ座(ウィーン)



エジンバラ城(スコットランド)



アーティストに寄り添った支援

堀井 今年4月1日より、関西・大阪の文化を民の力で盛り上げようという新たな支援組織「アーツサポート関西(ASK)」がスタートします。2012年に関西経済同友会の「歴史・文化振興委員会」が大阪版アーツカウンシルを提言したのが発端で、鳥井さん

鳥井 関西経済同友会の「技術とデザイナーものづくり強化委員会」では、厳しい国際競争に勝つためには、知識や技術に加えて文化、教養、感性も備えていなければならないと提言しています。戦後日本が発展してきた時代には、松下幸之助さんや小林一三さんといった文化に造詣が深く、社会的発言力や道徳観にも秀でた経営者のもとで独創的な製品やシステムが生まれました。しかし、バブル崩壊後の余裕のない経済環境のなかで、人々の文化に親しむ気持ちは希薄になってきたように感じます。文化と経済は車の両輪だという観点で言えば、日本の経済力を弱くしている遠因は、文化や教養を軽視あるいは敬遠したことにあるように思います。

堀井 大阪は古くから文化や社会貢献に対する理解が深い土地柄で、商人には、経済活動は社会貢献をするためだという考えがあり、それを家訓や社訓にしてきました。歌舞伎俳優の坂田藤十郎さんや片岡愛之助さんは、「大阪のお客様はノリが良く、演者と観客が一体になって芝居が大いに盛り上がる」とおっしゃっています。昔から大阪には文化を応援しみたいという素地があるんですね。川井さんがおっしゃったヨーロッパ人的気質と相通じるものがあるように思います。しかし、明治維新以降、芸術は楽しむものというより、奉って勉強するものという感じになってしまったのは残念です。

川井 それは私も感じます。日本でクラシックコンサートという堅いものだと思ってお客様が身構えてしまわれることが多いです。しかし、大阪ではそういうムードを感じません。お客様は最初から温かく、演奏が進むにつれてさらに熱気を帯び、それに演奏者が乗せられる感じが心地よいですね。

がおっしゃった「文化と経済は車の両輪」という理念のもと、都市に創造性と活気をもたらすべく、市民自らの手で文化を支援しようという取り組みです。最近、国や自治体が音楽や舞台芸術などの文化活動に対して助成金を分配する官主導のアーツカウンシル制度ができました。ASKも美術・デザイン、音楽、演劇、ダンス、映像・映画、伝統芸能などの分野に助成を行っていくものですが、官製のアーツカウンシルと異なるのは、例えば「オペラを支援したい」「ヴァイオリニストを支援したい」といったように、寄付者の意向に沿って寄付金の使途を“見える化”することで、アーティストに一層寄り添った支援を行っていくことです。公益財団法人である関西・大阪21世紀協会が事務局となって寄付金の受け皿となりますので、寄付者に対して税の優遇措置(寄付金を税の控除対象とする)も適用されます。川井さんはこうしたASKの取り組みをどのように思われますか。

川井 アーティストにとって、すごくありがたいことです。大阪芸術大学で教えていて思うのですが、学生たちは一生懸命勉強して夢を抱いて入学するのですが、その後は就職など将来に対する不安が大きくなり、当初の目標を見失いがちになります。私も学生時代に感じていたことですから、その気持ちはよく分かります。だからこそ学生たちには、目標となる発表の場を作ってあげたいのですが、そうした機会がとても少ないのが現状です。また、アーティストや学生は、実験的なことや新しい可能性を披露する機会がほとんどありません。コンクールで受賞した課題曲を発表するだけでなく、新しい演奏や作品を発表する機会がもっと増えれば目標が生まれ、音楽に携わる意欲も増すでしょう。

鳥井 頑張って技術を身につけても、仕事や社会に活かす

機会が少ないとなると、学生たちの不安は増えますよね。

川井 アーティストの需要がとても少ないのです。だから発表の機会を増やすと同時に、お客様が聴きたくなるようなムーブメントを起こして需要を掘り起こすことも重要です。芸術ってこんなに面白くて楽しいんだということを上手く伝え、アーティストとお客様をつなぐ感性豊かな人を育ててほしいと思います。

鳥井 芸術・文化の広報力やプロデュース力を高めることが必要ですね。例えば作品の見どころや聴きどころを楽しく分かりやすく解説して、作品に対する興味を喚起するような、アーティストを支援する人をサポートすることも大事だと思います。そうやってファンを増やせば、アーティストのモチベーションも上がるし、ひいては経済効果も期待できるでしょう。

寄付文化の醸成を

鳥井 例えば週1回でも月1回でも、会社に大阪芸術大学の学生さんに来てもらってコンサートを開き、「大阪の企業は従業員が芸術に触れることを奨励するのが当たり前」というような評判が立てば、大阪に対する印象も変わるでしょう。それを継続することで芸術・文化への関心が高まり、サポートしようという気運も生まれてくると思います。日本酒で乾杯をする条例があるくらいですから、「芸術鑑賞条例」を作ってもいいのではないのでしょうか。アーティストの仕事を増やすまでには至りませんが、芸術に触れる機会を増やすことにはなるでしょう。

堀井 それは面白そうですね。日々の大半を会社で過ごす人にとって、会社が文化化されることはとても大事だと思います。普段の生活に密着し、皆で感動を共有する運動も進めたいですね。

川井 ランチタイムにコンサートを開催すれば、ホールで聴くよりリラックスした雰囲気です。そうしてクラシックを楽しむ習慣を養い、コンサートにも気軽にお越しいたきたいです。

鳥井 企業は従業員一人ひとりのモチベーションによって支えられ、その集合が大きな成果を生み出します。企業人のモチベーションは給料やポストだけでなく、芸術・文化によって高まるものだと思います。

堀井 文化は与えられるもの、どこからか降ってくるものとは思わずに、自ら参画して創っていくものだという意識を持ってもらいたいですね。たとえ少額でも芸術・文化に寄付をすれば、アーティストにもっと関心を持ってもらえるし、そうした寄付文化を醸成することで観客の広がりや芸術・文化の質の向上にもつながります。ASKはそういう運動をしたいと思っています。

川井 私は学生に、音楽をするために自分がいるのではなく、自分を表現するために音楽がある。自信を持って取り組んでほしいと言っています。また、先生に習ったことをおさらいするばかりではなく、大学に入ったら色々な可能性を追求してほしい。



堀井良殷 (ほりい よしたね)

公益財団法人関西・大阪21世紀協会 理事長

い。芸術大学には、音楽だけではなく美術や映像、身体表現などいろいろな学部があります。音楽にも洋楽・邦楽があり、さまざまな楽器があります。そうした異分野との交流も積極的に行い、実験することで自分が見えてくることもありますから、学生にはどんどんそういう経験を積み、新しい自分を見つけて夢をもって進んでほしいと言っています。ASKにご支援をいただくと、学生たちに夢を与えることにもつながります。

堀井 いよいよASKの活動がスタートします。すぐに効果が表れるかどうか分かりませんが、息の長い活動にすることで5年、10年経てば必ず成果が出てくると思います。今後とも関西・大阪の文化力の向上にお力添えをいただきますよう、よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

川井郁子氏

ヴァイオリニスト、作曲家

大阪芸術大学教授

香川県出身。東京芸術大学大学院修了。大阪芸術大学教授。国内外の主要オーケストラをはじめ、ポップス系アーティストやバレエダンサーなどとも共演。映像音楽の作曲も手がけ、2013年、映画「北のカナリアたち」で第36回日本アカデミー賞最優秀音楽賞を受賞。「川井郁子Mother Hand基金」の設立や、UNHCR協会国連難民親善アーティスト、日本ユネスコ国内委員会委員を務めるなど社会奉仕活動にも参画。

鳥井信吾氏

一般社団法人関西経済同友会 代表幹事

サントリーホールディングス株式会社 代表取締役副社長

アーツサポート関西 運営委員長

1953年生まれ、甲南大学理学部卒業。南カリフォルニア大学大学院理学修士修了。伊藤忠商事株式会社を経て1983年6月サントリー株式会社入社。取締役生産企画部長、代表取締役専務取締役 SCM本部長を経て、代表取締役副社長。関西経済同友会では常任幹事、「歴史・文化振興委員会」委員長を務め、2012年5月に代表幹事就任。

アーツサポート関西 運営の仕組み

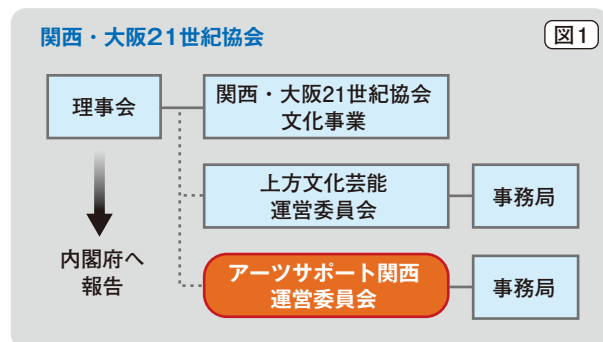
民による芸術・文化支援スタート

2014年4月1日、民による新しい芸術・文化支援の仕組みアーツサポート関西 Arts Support Kansai(ASK)がスタートします。市民からの寄付を有効に活用し、関西が蓄積してきた優れた芸術・文化を支援することにより、世界へ発信できる関西らしい芸術・文化を育てていきます。代表発起人は、経済界・文化人より下記の方々を迎え、関西の文化力の向上を目指します。

鳥井 信吾	関西経済同友会代表幹事
加藤 貞男	関西経済同友会代表幹事
佐藤 茂雄	大阪商工会議所会頭
森 詳介	関西経済連合会会長
千 玄室	裏千家第十五代・前家元
佐渡 裕	指揮者
安藤 忠雄	建築家

(敬称略、承諾順、肩書きは2014年3月現在)

事務局は公益財団法人 関西・大阪21世紀協会内に置き、協会のこれまでの事業とは独立し、別会計で運営します(図1)。



ASKのかじ取りは運営委員会が行い、ASKのビジョンや予算・決算、助成についての審議を行います。

運営委員

天野 文雄	大阪大学名誉教授
小嶋 淳司	がんこフードサービス株式会社会長
建島 哲	京都市立芸術大学学長 / 埼玉県立近代美術館館長
寺田 千代乃	アートコーポレーション株式会社代表取締役社長
◎鳥井 信吾	サントリーホールディングス株式会社代表取締役副社長
西岡 信雄	大阪音楽大学名誉教授 / 前大阪音楽大学学長
山本 雅弘	株式会社毎日放送相談役最高顧問

◎は運営委員長 (敬称略、五十音順、肩書きは2014年3月現在)

助成対象エリアは、関西元気文化圏に準じ、京都府、大阪府、滋賀県、兵庫県、奈良県、和歌山県、福井県、三重県、徳島県、鳥取県の2府8県に拠点に置くか、これらの地域で活動する芸術・文化の事業や団体が対象となります。

市民が関西のアートや文化をサポートしていくプラットフォーム



ASK発足の記者会見にて、左から山本雅弘、鳥井信吾、川井郁子、堀井良殿の各氏 (2月5日 国立国際美術館)

ASKは、市民の力によって関西のアートや文化をサポートし、育てていくための場=プラットフォームです。アートや文化の「受け手」と「送り手」の双方が主役=プレイヤーとなり、支援したり、支援を受けたり、あるいは、さまざまな形でコミュニケーションを深め、一緒に考え、支援します。

このプラットフォームを通して寄付をすれば、自分の好きなアートや文化のジャンル、あるいは団体などを直接支援することが可能となるほか、個人でも、法人でもそれぞれ税金の優遇措置が受けられます(図2)。

ASKへの寄付に対する税の優遇措置

- 法人 次のいずれか少ない額が損金に算入
 - ・特定公益増進法人に対する寄付金の合計額
 - ・特別損金算入限度額
 - = (資本金等の額×事業年度の月数/12×0.375%+所得金額×6.25%)×1/2
 - 個人 次の所得控除または税額控除のいずれかを選択
 - ・所得控除: 寄付額*1 - 2,000円 = 寄付金控除額
 - ・税額控除: (寄付額*1 - 2,000円) × 40% = 寄付金特別税額控除額*2
 - ※1: 年間所得の40%まで ※2: 所得税額の25%が限度
 - 遺産寄付(遺贈) 全額控除
- ※詳しくは最寄りの税務署等にご相談ください。

従来の芸術・文化の支援制度は、運営する側が一括して支援先を決めてきました。芸術・文化の一方の主役である鑑賞者が関与できる余地はほとんどありませんでしたが、ASKはこのやり方をガラリと変え、市民のみなさんにアートや文化の育成に直接かかわっていただく取り組みを進めていきます。

誰もがアートのパトロンに!

ASKへの寄付の仕組みは、金額に応じて1,000円～、5万円～、500万円～と3段階の構成になっています。

1,000円以上の寄付で「分野指定寄付」が行えます。自分が寄付をしたい分野を、美術・デザイン、音楽、ダンス、演劇、映像・映画、伝統芸能、複合的なジャンル、そして指定なしの8つのカテゴリから選べます(図3左)。

5万円以上のものについては、誰でも自分の名前などを冠した「個別寄金」をつくることができます(匿名も可能)。「個別寄金」を設置すると、上記の8つの分野に加えてご自分が助成したい表現ジャンル(オペラ、現代美術、能楽等)の希望設定が可能になるほか、特定の団体等を指定できる「特定型 個別寄金」を設けることができます(図3右)。

500万円以上の高額寄付については「個別寄金」の設定

に加えて、「継続基金」もしくは「期間基金」のいずれかの運用タイプが設定できるようになります。「継続基金」は元本を取り崩さずに運用益だけで助成し、「期間基金」は期間を設定しその期間内で元本と運用益で助成します。

「個別寄金」のパトロンは、助成後に、自分のお金で支援したアーティストたちと交流することもできます。いわば志のある市民が関西のアートをサポートするパトロン(=タニマチ)となるのです。パトロンとなって楽屋を訪問したり、練習に立ち会うなどして、アーティストとコミュニケーションを深め(※)、身近にアートや文化に接していただける機会を提供します。

(※パトロンのプログラムについては、アーティストの意向を尊重して事務局がご提供させていただきます。場合によってはご要望に添えないことがあります。)

アーティストに寄り添った創造的支援を!

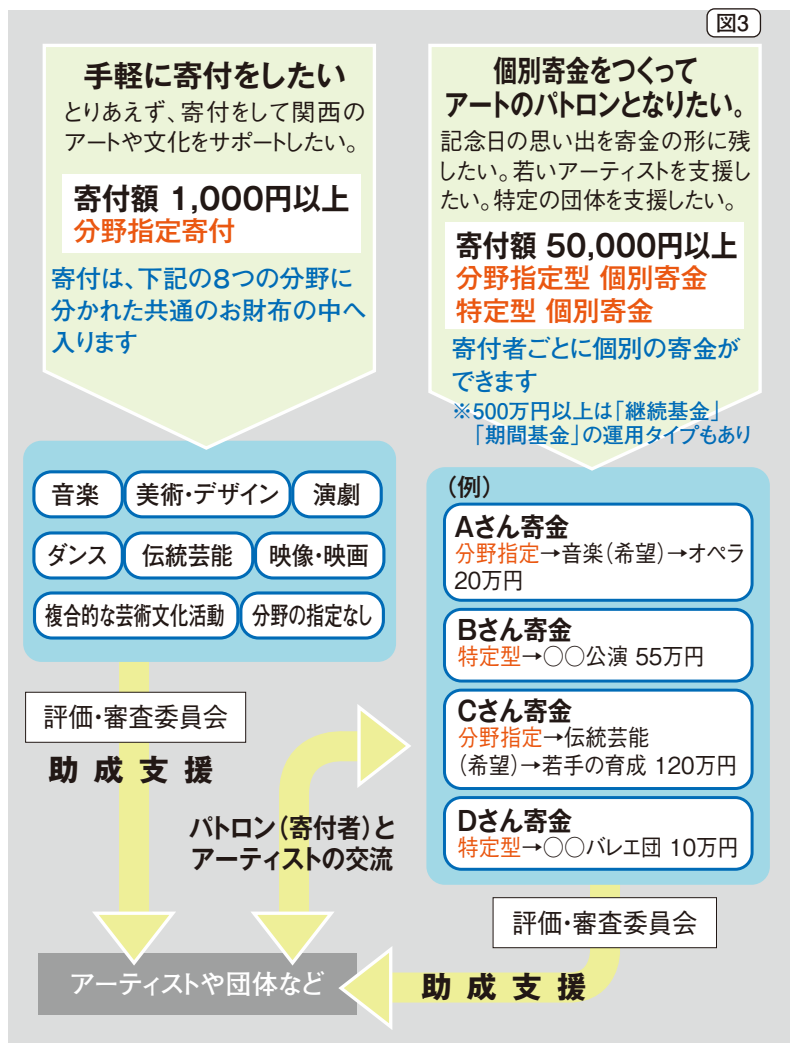
ASKの活動は単に寄付を集めるだけではありません。アーティストに寄り添った創造性のある支援を目指します。既存の枠組みに収まらないジャンル横断的な活動や発表の機会が少ない実験的な試みなども積極的に支援していきます。

審査と評価

助成の審査にあたっては、アートや文化の専門家によって構成された評価・審査委員会が、審査にあたります。助成の申込みは、個別寄金に対して行われます。募集にあたってはすべての寄金をホームページ上で公開し、助成を希望するアーティストや団体は、その中から自分の要望や活動にふさわしいものを選んで申請します。評価・審査委員は、いわばアーティストと寄付者を取り結ぶ仲人のような役割を担います。

評価・審査委員は、プログラム・ディレクターを兼務し、関西のアートの状況や課題を事務局と共有しながら、支援した事業の評価を行います。その結果は、寄付者にフィードバックされるほか、今後の支援活動にも活かされます。

みなさまのご協力とご参加を心よりお待ちしております。



アーツサポート関西 事務局

〒530-6691 大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル29階
公益財団法人 関西・大阪21世紀協会内

Tel: 06-7507-2002 Fax: 06-7507-5945 E-mail: ask@osaka21.or.jp

関西における民間アーツカウンシルの

英国で誕生

アーツカウンシル (Arts Council of Great Britain : ACGB) は、1946年に英国で誕生し、60年以上の歴史があります。ACGBの初代会長である経済学者のJ.M.ケインズは、その理念をこう語っています。「私たちの最初の目標は、戦争（第二次世界大戦）が私たちから奪い取ったものを取り戻すことでした。私たちは憲法で独立が保障され、官僚主義に束縛されず、しかし国庫から資金提供を受ける永続的な機関となるのです。行政組織の仕事は、彼ら（アーティスト）を指導したり、検閲したりすることではなく、勇気と自信とチャンスを彼らに与えることなのです」。ナチス・ドイツが芸術を政治利用したことにも異論を唱え、芸術表現の独立性を維持するために、行政とは一定の距離を保ち、独自の運営や裁量が認められるべきという「アームズ・レングス」の法則を提唱しました。現在も英国政府（文化・メディア・スポーツ省）はこの原則に則り、アーツカウンシルを専門機関として尊重し、予算を支出しても、その使い道は委ねています。

これまで、労働党と保守党で政権が変わるたびにアーツカウンシルへの予算は大きく増減しましたが、非政府公共機関として独自に機能し、現在に至っています。職員は元美術館学芸員などを含む芸術分野の専門家420人（2013年7月）。予算は2011年度が約6億ポンド（940億円）、2012年度は美

術館や博物館の予算、教育省の補助金も加わり、総額約7.4億ポンド（1100億円）に増額されています。イングランドを5つのエリアに分けて運営されており、2012年度は、公募に申請した1333団体から696団体を採択し、約3.1億ポンド（495億円）を支給しています。また、助成事業だけではなく、戦略的な資金提供や幅広い調査研究事業にも取り組み、つねに高い自己改革意識を持って事業に臨むなど、英国モデルは日本のアーツカウンシルにとって大いに参考になります。

日本の現状

日本には、文化庁の外郭組織で芸術文化振興基金（約600億円）を運営する「独立行政法人日本芸術文化振興会」があります。英文名で「Japan Arts Council」といいますが、英国のアーツカウンシルとは趣きが異なっていました。

同振興会では、文化芸術に対する助成事業を有効に機能させるため、2011年度より20人程度のプログラムディレクターやプログラムオフィサーと呼ばれる専門家を配置しています。2013年度は、文化庁のトップレベルの舞台芸術創造事業（音楽、舞踊、演劇、伝統芸能、大衆芸能、映画）の助成対象となった公演を観たり、芸術団体にヒヤリングして評価や審査の機能を充実させるとともに、助成プログラムの改善を視野に入れた取り組みを行っています。2013年度は457件の応

ASKIに期待!

「アーツサポート関西」への応援メッセージ



● 入谷 幸子(いりだに さちこ)氏
ピアニスト

演奏家にとって、演奏する場があり、それを聴いてくださる方がいることは大きな支えであり喜びです。このようなチャンスを求めている新進芸術家が、それぞれの活動に対する経済的支援を得られるアーツサポート関西の体制が広く知られ、芸術・文化振興の担い手として大きく発展していくことを心より期待しております。



● 片岡 リサ(かたおかりさ)氏
箏奏者/大阪音楽大学講師

アーツサポート関西の誕生、おめでとうございます。大阪で生まれ育ち、現在も大阪に住み音楽活動を続ける私にとって、関西の文化力が高まることは本当に嬉しく思います。演奏家とお客様の思いがひとつになった素晴らしい舞台を作り、日本で最高の芸術をこの関西から発信していきましょう!



©HIKAWA

● 岩谷 祐之(いわたに ひろゆき)氏
ヴァイオリニスト/関西フィルハーモニーコンサートマスター

アーツサポート関西の支援により、若いアーティストの活躍の場が増えていくことに大きな喜びを感じています。今まで、資金面の問題から自由な活動をできずにいた個人や団体にとって、今回のASK発足はまさに希望の光になると思います。関西から世界へ! 未来はきっと明るいでしょう。



● 桐竹 勲十郎(きりたけ かんじゅうろう)氏
文楽人形遣い

関西の文化、芸能を支えてくださる「アーツサポート関西」に大いに期待しております。新しい火をたくさん灯し、伝統ある火を消さぬよう、多くの方々のご支援をお願い申し上げます。

可能性

吉本光宏氏

株式会社ニッセイ基礎研究所 主席研究員・芸術文化プロジェクト室長



(写真撮影：杉全泰)

募のうち322件が採択され、約31億2800万円の助成金が交付予定です。780件に約15億7450万円の助成金交付を予定している芸術文化振興基金の助成事業でも同様の取り組みが始まりました。こうした試みはまだ始まったばかりですが、日本のアーツカウンシルは今、大きく前進しようとしています。

一方、東京都(東京芸術文化評議会、アーツカウンシル東京[公益財団法人東京都歴史文化財団])や横浜市(アーツコミッション・ヨコハマ[公益財団法人横浜市芸術文化振興財団])、大阪府・市(大阪アーツカウンシル)、沖縄県(沖縄文化活性化・創造発信支援事業[公益財団法人沖縄県文化振興協会])でも、それぞれ独自のアーツカウンシル事業を推進しています。また、企業メセナ協議会の調査によると、2012年度にメセナを行った民間企業や企業財団などの活動費総額は約810億円で、文化庁の予算(約1000億円)に迫る規模になっています。

民間アーツカウンシルへの期待

私は、関西における民間アーツカウンシルに、6つのことを期待しています。1つめは、例えば公益財団法人である関西・大阪21世紀協会のような組織に対する寄付には税制優遇(寄付が所得税控除の対象となる)がありますので、これを活用して民から民への資金の流れを促進してほしいということ。

2つめは芸術文化活動に対する助成申請手続きの簡素化、複数年助成、概算払い(助成金の半額程度を事前に支給)など、助成を受ける側に寄り添った制度設計がされていること。3つめは人員やノウハウに乏しい小規模な企業財団への情報提供や相互交流を担う「センター機能」を担ってほしいということ。4つめは評価や戦略構築に加え、芸術文化活動のトレンドや環境変化に沿った柔軟なプログラミングを行うシンクタンク機能を備えていること。5つめは例えば企業の遊休不動産を稽古場や作品発表の場に提供することを仲介するような中間支援機能を担うこと。6つめは、「芸術文化のためのメセナ」から「社会のためのメセナ」という考え方にに基づき、市民からの支持を広げつつアドボカシー(政策提言・政策誘導)活動を行うことです。そうすることで、芸術文化活動はアーティストのためだけのものではなく、教育や福祉、地域再生など、社会をより良く変革する力ともなるはずです。

(2013年10月15日 / 21caféより)



塚原 悠也(つかはら ゆうや)氏 現代美術家

とにかくアーティストがもう少し多く稼げるというのと、仕組みについて日々考えています。この制度によって、そこを全部変えて欲しいとまではいいませんが、でもせめて毎月今の2倍強、大卒の初任給くらいは欲しいかなあ。これだけやってるし。海外公演から帰国するたびに、向こうのアーティストとの待遇の違いを痛感しています。



春野 恵子(はるの けいこ)氏 浪曲師

大阪が誇るエンターテインメント「浪曲」を世界へ!その夢を実現させるためにクラウドファンディング(CF)で500人近い皆様から御支援を頂き、ニューヨーク浪曲公演を行いました。皆で同じ想いを共有できるのが嬉しいシステム。アーツサポート関西でもWEB寄付やCFを行うとのこと。現代にフィットした新しい文化支援のスタートにワクワクしています!



名和 晃平(なわ こうへい)氏 彫刻家

市民中心の文化支援がまちに広がり、また、作家に寄り添いながらサポートを行うことによって、関西で活動、活躍するアーティストの励みとなっていくことと思います。アーツサポート関西が今後、関西の芸術・文化活動の底上げとなることを期待します!



三宅 砂織(みやけ さおり)氏 美術作家

アーツサポート関西設立おめでとうございます。豊かな歴史を持つ関西で、芸術・文化の新しい生態系を作ることは、非常に意味深いことだと思います。ここからいわゆる美人投票ではない、他にはない価値が生み出されることを期待します。

(五十音順)

地域との「つながり」を大切に、 関西・大阪の魅力を高めたい



昭和初期のガスビルの遠望



文化の発信拠点であったガスビルでの料理教室

メセナの原点はガスビル

私ども大阪ガスは、来年2015年に創業110周年を迎えます。創業以来、地元、関西・大阪を基盤とする企業として、会社の施設、人材、ノウハウなど有形無形の資源を活用して、ささやかではありますが、地道な地域貢献活動を続けてきました。

当社の活動にメセナというべき部分があるとすれば、その原点は、約80年前の昭和の初め、御堂筋沿いに建てられた本社ガスビルに遡ります。当時、ガスビルは大阪のハイカラな都市文化のシンボルとして、大いに注目を集めました。そこでは、文化・

科学の振興と都市ガスの普及を目的に、先進的なガス機器の展示や料理教室の開催、洋食レストラン（ガスビル食堂）の開業、大ホールでの映画、演芸、音楽の鑑賞会などが盛んに行われました。

ガスビルは、まさに都市文化の発信拠点であったわけですが、そのような「地域の皆さまのお役に立ちたい、大阪の街を元気にしたい」という当社のDNAは、文化・スポーツ振興、ボランティア活動といった形で現在も受け継がれています。

文化・スポーツ振興への一助

文化振興へのサポートという面では、扇町ミュージアムスクエア(以下OMS)の活動が中心です。OMSは当社の支社跡地を利用した複合文化施設で、小劇場を中核に、1985年から2003年までの18年間、若者文化の創造拠点としてご愛顧いただきました。その間、次代を担う劇作家の発掘を目的に「OMS戯曲賞」も創設しています。

建物の老朽化に伴い、施設としてのOMSは閉館せざるを得ませんでしたが、OMS戯曲賞は現在も続いており、微力ながら関西演劇界を活性化するためのお役に立ちたいと願っています。

また、硬式野球部や陸上競技部の活動を通して、地元でのスポーツ振興のお手伝いもさせていただいています。硬式野球部では、都市対抗野球大会をはじめ社会人野球の全国大会への出場を目指す一方で、「日本一の社会貢献活動を行う野球部」を目標に掲げ、地域での野球教室の開催、清掃活動などを続けています。

ボランティア活動 ～“小さな灯”運動～

また、“小さな灯”運動という社員が自発的に参加するボランティア活動にも取り組んでいます。社員がカレンダーを購入し、その売上を福祉活動に寄付するチャリティ募金、七夕やクリスマスの日には社員が手づくりのお菓子を持参して児童福祉施設を訪問する催し、福祉作業所などで作られた商品をガスビル前で展示・販売する「御堂筋ふれあいバザー」といった活動を続けています。一つひとつは小さな取り組みですが、継続し、積み重ねることが大切だと思っています。



OMS戯曲賞は関西演劇の活性化に一役

地域と人とのつながり

東日本大震災から3年が経ちます。関西を基盤として事業活動を行う当社が、地域とのつながり、お客さまとの絆の大切さを痛感したのは、1995年に起こった阪神・淡路大震災の時のことです。ガスによる二次災害を防ぐため、供給エリアの全てのお客さまの15%にあたる約86万戸ものガス供給を停止しました。

その後の復旧にあたっては、何よりも住民の皆さま方のご理解とご協力、そして温かい励ましやご支援の数々、さらには全国のごガス会社からの作業応援をいただいたことが復旧への大きな力となりました。この時の経験から、「地域との強いつながり、地域の方々の支えがあつての大阪ガスである」ということを改めて実感しました。

これからも、当社は、都市ガスをはじめとするエネルギーを安全かつ安定的にお客さまにお届けするのはもちろん、地域とのふれあい、信頼の絆を大切にしていきたいと思えます。文化やスポーツ、ボランティア活動が地域の一体感や活力を高めるのに欠かせない“ビタミン”のようなものであるのなら、私ども大阪ガスがそれらの活動を通して、関西・大阪の魅力向上に貢献する意義があるものと確信しています。

尾崎 裕(おざき ひろし)氏

昭和25年3月生まれ。昭和47年 東京大学工学部を卒業後、大阪ガス株式会社に入社。平成20年 同社代表取締役社長に就任。平成25年 大阪商工会議所副会頭、一般社団法人日本ガス協会会長に就任。

大阪ガス株式会社

本社 大阪市中央区平野町4-1-2、創業 明治38年(1905年)10月19日、資本金 1,321億円、お客さま数(取付メーター数) 708万6千戸(2013年3月末)、従業員数(個別) 5,867人(2013年3月末)



地域の子供たちを指導する硬式野球部員



阪神・淡路大震災の復旧現場
地域のお客さまの温かい励ましが復旧の支えに



和洋 愛のかたち ～なみだの浪曲vsオペラの情熱～



「オペラのムードに違和感なく入り込めた。清原さんに頼ってやりました」と京山小圓嬢さんが褒めれば、「浪曲の感情や情景が目には浮かび、芝居がしやすかった。共演できて光栄」と清原邦仁さん。昨年10月29日、クラブ関西(大阪市北区)で開催されたアート・アセンブリー2013「なみだの浪曲vsオペラの情熱」で、二人はそう語ってお互いを讃えた。

(ひと)よ」で歌い上げ、続いて小圓嬢さんが「世間の人様から、お里は器量良しじゃ、べっぴんじゃと、誉めていただける其方が不憫。狼谷へ身を投げて私ゃあの世へ参ります」と、沢市の身投げシーンへと畳み掛ける。それを合図に力のこもったピアノが入り、清原さん歌うは「さらば愛の家(オペラ・蝶々夫人)」。蝶々夫人を残して帰国するピンカーソンの歌だが、清原さんが朗々と歌えば歌うほど、自己犠牲とはいえ男の身勝手が強調整され、憎々しく感じてしまうほど。物語の世界に引き込む演出の妙である。

演目は文楽や講談でも有名な『壱阪靈験記』。そのクライマックス、盲目の夫・沢市が、壱阪寺観音様の靈験で光を得ようと恋女房・お里を伴って急な山道を行くうち、自分がいては生涯お里に苦勞をかけると考え、腹痛と偽ってお里を家に返し自分は谷に身を投げる。そうとは知らず薬を取って戻ったお里。「目の見えないのに一人で死んで、弥陀の浄土に行く道は、誰を頼りに行かしゃんす」と、沢市の後を追って自らも谷に身を投げるが…。

上演を主催した関西・大阪21世紀協会の堀井良殷理事長は、「普段の公演では見ることでできない実験的な試みも楽しんでもらいたい」と言う。浪曲とオペラの共演は、イタリア語が分からない身には、心象世界(アリア)から現実世界(浪曲)へと感覚がスリップする不思議な体験。万雷の拍手のなかで、愛は純粹で美しいがゆえに、哀しい一面もあることを悟らされた気がした。

(ライター 三上祥弘)

京山小圓嬢さん 清原邦仁さん

(オペラ歌手)

(浪曲師)

アート・アセンブリー2013

2013年大阪文化祭賞奨励賞受賞

2013年大阪文化祭賞受賞

愛する人の幸せのためには自己犠牲も厭わないという浪曲(日本人)の哀しさと、愛する人に思いの丈を伝えようと腐心するオペラ(イタリア人)の情熱。和洋で異なる愛のかたちをどう昇華させるのか。ピアノ(佐藤節子さん)の静かな調べに促され、沢市演じる清原さんの、「私を泣かせてください(オペラ「リナルド」ヘンデル作曲)」で幕が開く。

高ぶる感情を抑えつけるような理知的な歌いぶり。目を閉じ、偽りの腹痛で悶絶する清原さんの仕草に、沢市の哀しい決意が伝わる。それが終わると小圓嬢さんの出番。夫のために薬を取りに戻るお里の不安を語り、三味線(沢村さくらさん)の乾いた音色が緊張感を掻き立てる。清原さんは、そんなお里の健気さを「CARO MIO BEN～いとしい女



京山小圓嬢さん

京山小太夫に師事し、1948年に初舞台。以来66年、関西浪曲界の牽引役として精力的に活躍。大ベテランらしいメリハリの利いた啖呵(セリフ)と絶妙なリズム感のある節(曲)で深い情念を表現する。1999年大阪府知事表彰、2013年一心寺門前浪曲寄席「壱阪靈験記」で大阪文化祭賞受賞。2013年度文化庁芸術祭大賞受賞。



清原邦仁さん

1974年生まれ。大阪音楽大学音楽学部声楽科卒業、同専攻科修了。同大学院オペラ研究室修了。日本各地のオペラ公演にソリストとして出演し、幅広い役柄を好演。2005年大阪舞台芸術新人賞、2013年関西歌劇団第95回定期公演「仮面舞踏会(リッカルド役)」で大阪文化祭賞奨励賞受賞。

アート・アセンブリー：関西・大阪を拠点に活動する優れたアーティストを各界のリーダーに紹介し、アーティスト支援の輪を広げることを目的としたサロン風上演会。2010年から一般社団法人クラブ関西の協力を得て、現在の形で毎年秋に実施している。

アートストリーム 2013

2013年11月15～17日／大丸心斎橋店

絵画、イラスト、彫刻など、一般公募の中から選ばれた60組が出展。アートストリームアワードでは、大賞（副賞30万円）に銀影さん（クラフト）、奨励賞（副賞10万円）に今村知也さん（映像）ほか2名、企業・ギャラリー賞（制作依頼など特典付き）にハタヤママサオさん（イラスト）ほか10名が選ばれた。銀影さんは、珊瑚の樹海に迷い込んだ友人を助けにいく仲間の物語を陶土で表現。審査委員長の絹谷幸二氏（画家・大阪芸術大学教授）から大賞を手渡され、「作品に込めたストーリーの断片だけでも共感してもらえれば嬉しい」と喜びを語った。13回目となる今回は、3日間でのべ約3000人が来場し、会場は連日盛況となった。

主催：アートストリーム実行委員会（関西・大阪21世紀協会、大阪芸術大学、大阪府、大阪市）



銀影さんと作品

南大阪・上町台地フォーラム 「阿部野神社と花將軍」

2013年11月29日／阿部野神社

鎌倉時代末期の公卿・武将で、紅顔の美男子であったことから「花將軍」と呼ばれた北畠顕家（1318～1338）ゆかりの阿部野神社（大阪市阿倍野区）を視察。同社は、顕家の父で後醍醐天皇の信任厚かった北畠親房（1293～1354）をご神体とする官社で、父子の墓所でもある。参加者は、戦に次ぐ戦の末21歳で夭逝した顕家の生涯と、父・親房の苦悩を『太平記（1991年NHK放送）』を観て振り返り、中塚昌宏宮司の案内で境内を見学。その後、旭堂南青さんによる講談『後醍醐天皇』を聴き、戦乱の歴史に思いを馳せた。



中塚宮司の案内で境内を見学



旭堂南青さん

交流サロン 21café

環境スポーツイベント「SEA TO SUMMIT」について

辰野 勇氏（株式会社モンベル会長兼 CEO）

2013年11月29日／ルポンドシェル

アウトドアグッズの有名ブランド「モンベル」の創業者で、アイガー北壁日本人第二登を果したことで知られる辰野氏が、環境スポーツイベント「SEA TO SUMMIT」について講演。カヤック、自転車、ハイクの3つを手段に水辺から山頂をめざす同イベントの実施状況や、同社の社会貢献や自然保護活動などが映像を用いて紹介された。講演後の交流会では、辰野氏自身による篠笛が披露された。



辰野 勇氏

現代アートの新しい流れ

建島 哲氏（京都市立芸術大学学長、美術評論家）

2014年2月24日／Osaka Chaos Cafe（日鉄御堂筋ビル）

数々の国際的な現代美術展に携わってきた建島氏が、インスタレーション（場所や空間を含めた芸術表現）を中心とした現代アートを紹介。自身が芸術監督を務めた「横浜トリエンナーレ（2001年）」や「あいとりエンナーレ（2010年）」を例に、草間彌生やオノ・ヨーコらの作品を紹介し、現代アートの近年の動向や「具体美術協会」に代表される関西の現代アートの歴史が解説された。



建島 哲氏

ことぶき花舞台

2014年1月30日／国立文楽劇場

日本の伝統芸能を身近に楽しんでもらうことを、当協会の上方文化芸能運営委員会が主催。片岡愛之助氏と桂米團治師による軽妙なトークにはじまり、今藤美佐緒さんをはじめ京都の宮川町芸妓による長唄『二人椀久』、片岡愛之助・上村吉弥・中村壺太郎氏による藤間勤十郎師振付の歌舞伎舞踊『夕霧伊左衛門』など、大阪ゆかりの伝統芸能が披露された。



撮影：越田悟全

今宮戎神社十日戎「宝恵駕行列」

2014年1月10日／道頓堀～今宮戎神社



今宮戎神社十日戎の奉納行事として、江戸時代にはじまり明治中頃から花街の誘客手段として規模を大きくした宝恵駕(ほえかご)行列。今年は芸妓代表の慶子さんを先頭に、歌舞伎俳優の市川猿弥さん、上方舞山村流六世宗家の山村若さん、上方落語協会会長の桂文枝さん、日本相撲協会理事の貴乃花光司さんらが、「ほえかご、ほえかご」の掛け声とともにミナミの商店街に繰り出し、今宮戎神社を参拝した。関西・大阪21世紀協会「上方文化芸能運営委員会」は、主催する宝恵駕振興会実行委員会の役員を務め、実施運営に携わっている。

関西社会人大学院連合 インテリジェントアレー専門セミナー

関西・大阪21世紀協会提供講座 **関西文化 ～釣る、食べる、生きる～**

第1回「関西釣り文化概論」佐々木洋三氏(シマノインストラクター、関西・大阪21世紀協会専務理事)

2014年1月15日／キャンパスポート大阪(大阪駅前第2ビル)

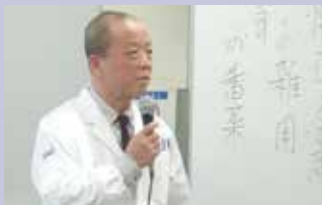
日本の釣具市場の東西比較にはじまり、弥生・縄文人の釣法や大阪における釣りの歴史、ルアーフィッシングの面白さ、アングラー(ルアーで魚を釣る人)の心理など、さまざまな角度から関西の釣り文化が紹介された。鯛のルアー釣りを科学的に分析したり、三内丸山遺跡(青森県)から出土した釣針を再現した苦労話など、釣りが趣味でない人でも楽しめる興味深い内容で、アート魚拓の第一人者である松永正津氏からの話も加わり、活気のある講義となった。



佐々木洋三氏

第2回「釣り人と関西の食文化」谷口博之氏(辻調理師専門学校 日本料理特任教授)

2014年2月19日／キャンパスポート大阪(大阪駅前第2ビル)



谷口博之氏

1980年代から90年代にかけて、9年間にわたり作家・開高健と世界各地の釣行(OPA! 隊)に参加した谷口氏。その思い出をはじめ、東京、大阪、京都で異なる食文化の歴史や違い、昨今の食品添加物の恐ろしさなど、和食を中心にさまざまな話題がジョークを交え面白く語られた。中南米コスタリカで日本酒の代わりにロンリコで鯛を煮付けたり、タランチュラが這い回る中で毒蛇を料理したり、イグアナの意外な美味しさなど、他では聞けない話の連続に参加者は時間を忘れて引き込まれた。

平成25年関西元気文化圏賞贈呈式

2014年1月28日／リーガロイヤルホテル大阪

文化によって関西から日本を明るく元気にした人物や団体に、感謝と一層の活躍を期待して贈られる関西元気文化圏賞。11回目となる2013年は、同年4月に開業したグランフロント大阪に大賞が贈られた。開業5か月余りで来場者約2700万人という高い集客力を発揮し、知的創造拠点「ナレッジ・キャピタル」をはじめ、関西文化の新たな発信拠点として注目されたことが評価された。特別賞は御遷宮対策委員会(伊勢神宮)、ニューパワー賞は片岡愛之助さん(歌舞伎役者)、桐生祥秀さん(洛南高校・陸上選手)、能年玲奈さん(女優)、山口茜さん(福井県立勝山高校・バドミントン選手)に贈られた。(主催:関西元気文化圏推進協議会)



桐生祥秀さん
「9秒台を期待されてプレッシャーも感じますが、子どもたちに目指されるような選手になりたい」(贈呈式祝賀会にて)

堂島薬師堂節分お水汲み祭り

2014年2月3日／堂島薬師堂および北新地一帯



山田法胤管主から香水を受ける桐竹勘十郎さんとお初人形(堂島薬師堂にて)

大阪キタの活性化と水都大阪の再生をめざす早春行事で今年が11回目。堂島薬師堂で奈良薬師寺・山田法胤管主が節分法要をした後、薬師寺で祈祷された「お香水(こうずい)」を参拝者の竹筒護符に汲み分けて無病息災や商売繁盛を祈願する「お水汲み」が行われた。隣接する堂島アバンザ会場では、薬師寺僧侶による「声明(しょうみょう)」や北新地芸妓衆による舞などが奉納されたほか、文楽人形遣いの桐竹勘十郎さんが、「首根崎心中」に登場する人形・お初とともに北新地本通りを練り歩いた。

(主催:堂島薬師堂節分お水汲み祭り実行委員会)

後援イベント

「伝統と創意」第68回日本書芸院展

日本の書道界の第一線で活躍する書作家が、「伝統と創意」の理念のもとに制作した新作約450点を一堂に展示。会期中は記念講座や列品説明会も開催。◆4月15日(火)～20日(日)10:00～17:00/大阪国際会議場3階特設会場/入場無料/問合せ:公益社団法人日本書芸院 ☎06-6945-4501、FAX06-6945-4505 E-mail:info@nihonshogein.or.jp

第33回日現展

国際公募の美術団体・日現会が主催する、国際交流と芸術文化の華開く美術展。◆4月15日(火)～20日(日)9:30～17:00/大阪市立美術館地下展覧会室/入場料:大人600円、学生500円/問合せ:日本現代美術協会事務局 ☎・FAX072-277-1482

いけばなインターナショナル 大阪支部 第23回フェスティバル

いけばな、お茶席、能のミニコンサートを通して在留留学生に日本の伝統文化を紹介。留学生は無料でいけばなやお茶席の体験もできる。(先着200名)◆4月27日(日)11:00～16:30/大阪国際交流センター/入場無料(一般・留学生) 問合せ:いけばなインターナショナル大阪支部 E-mail:chihirorisak@gmail.com



大阪ベイエリア祭 第9回「World あぼろん」

「河内音頭」や「よさこい踊り」など、さまざまなジャンルの踊りや文化・芸能が集結する一大芸能文化祭。大阪ベイエリアを世界へ発信。◆4月27日(日)10:30～18:30/ATC(アジア太平洋トレードセンター)他/観覧無料/問合せ:Worldあぼろん実行委員会 ☎06-6615-5230、FAX06-6615-5021



大阪ジュニアバンド主催

「第35回定期演奏会」～感動の絆～
大阪府市在校の小中学生による金管バンドとバントワリング。今年8月のブラジル・サンパウロ友好親善演奏に向けた情熱音楽を披露。◆4月27日(日)13:30開演、17:00終演/大阪国際交流センター/入場無料(但し寄付金等の受付有)/問合せ:大阪ジュニアバンド(大阪市立中道小学校内) ☎06-6972-4371、FAX06-6973-2135

西洋古楽器による小演奏会 ～風雅なあそび心～Vol.112

風がおる季節にドイツからのバロックたより
◆戦国の日本を支えた堺で、鎖国により、響くことのなかったバロック音楽を能舞台で聴こう! / 4月30日(水)14:00/堺能楽会館 ◆古都奈良でバロック音楽を聴こう! / 5月1日(木)13:00開演/大和文華館・文華ホール ◆気楽にcafeでバロック! / 5月3日(土)13:00開演 / Garden & Cafe 楽・別棟 / 入場料・前売り: 一般2500円、高校生以下1000円(当日500円増し) / 問合せ:そう楽舎 ☎090-8147-4861(赤坂放笛)、FAX0745-55-2478 E-mail:souraku_umami2000@yahoo.co.jp



第16回高槻ジャズストリート

市民ボランティアが企画・運営し、国内外から4000人以上のミュージシャンが市内約50会場演奏を披露。◆5月3日(土)～4日(日)10:00～21:00/高槻現代劇場、高槻城跡公園ほか約50会場/入場無料/問合せ:高槻ジャズストリート実行委員会 ☎072-662-7222、FAX072-662-7333



第37回浜寺ローズカーニバル

バラが咲き誇る5月に開催される住民主体の手作りイベント。大阪南部地域の活性化をめざす。◆5月18日(日)<雨天順延5月25日(日)>10:00～16:30/大阪府立浜寺公園/入場無料/問合せ:浜寺公園振興協議会 ☎072-261-2030、FAX072-263-2268



第21回共生・共走リレーマラソン

障がいの有無に関わらない6時間のリレーマラソン。イベントやステージ、福祉機器展、手作り体験、フリーマーケットなども開催。人との交流を通して心のバリアを取り除き、共生社会の創造をめざす。◆花博記念公園鶴見緑地内ハナミズキホール・付属展示場および周辺/5月25日(日)9:00～15:00/入場無料(但しマラソン参加は大人2700円、高校・大学生1600円、中学生以下1100円、ファミリーチーム(1家族記念品は3名分)4800円・4月30日締切)/問合せ:共生・共走マラソン実行委員会 ☎06-6791-2212、FAX06-6791-7993

大阪舞洲ゆり園

海とゆりの競演! 大阪湾に咲く200万輪のゆり! 身障者や高齢者でも園内散策が容易に楽しめるよう、遊歩道が舗装され、歩きやすくなりました。◆舞洲スポーツアイランド内/5月31日(土)～7月6日(日)9:00～18:00/入場料: 大人1000円、小人300円/問合せ:株式会社ピーエスジェイコーポレーション ☎0570-02-1187、FAX0721-52-1656



※イベント内容の詳細については、各問合せ先にお問合せください。
※ここに紹介する以外にも、関西・大阪21世紀協会は多数のイベントなどを後援しています。

アートストリーム2013 企業・ギャラリー賞受賞 ハタヤママサオさん

悔しさをバネに、6度目の挑戦でダブル受賞

創作活動に入ったきっかけは、アルバイトをしていたバーでの出来事だった。店長に奨められるままに絵を描いて店内に飾ったところ、客から「売ってほしい」と頼まれた。このとき26歳。子どもの頃から絵を描くのは好きだったが、自分の絵が人の心に響くことにはじめて気づいた瞬間だった。

30歳になった2006年、書き貯めた絵を持って、大阪で開催されていたグループ展に参加した。どんな絵が喜ばれるか生の反応を知りたいと思ったのだが、一週間かけて売れたのは150円のポストカード1枚だけ。あわよくば小遣い稼ぎも期待していたが、電車賃にすらならなかった。「自分に力がないのではなく、世間に知られていないだけ」。自らにそう言い聞かせ、以来、大阪、京都、名古屋、東京と、アートイベントと聞けば手当たり次第に参加し、「ハタヤママサオ」をアピールした。

アートストリームの選考審査に初めて通ったのは、そんなさなかの2008年。業界関係者が注目するアートストリームは憧れの場だったし、なによりアワード(賞)が魅力だった。結局受賞を逃したが、もっと悔しかったのは、以後5年間公募審査に落選しつづけたことだった。アートストリームは、応募者が多くレベルも高いうえ、審査も厳しい。だから6度目(2013年)の挑戦で、「企業・ギャラリー賞(大阪水上バス賞、関西・大阪21世紀協会賞)」をダブル受賞した思いは格別だ。

現在は大手百貨店のメインビジュアルや雑誌表紙、パッケージデザインなどを手掛け、個展開催やサマーソニックでのライブペイントなどアート活動も多岐にわたる。「パリやニューヨークで個展をしたい。そして世界に通用するアーティストになりたい」。その言葉には、幾度も挫折を乗り越えてきたしなやかな強さがあった。



ハタヤママサオさん
1976(昭和51)年、大阪生まれ。風景や人物、動物などをモチーフに独特のカラフルな色彩で表現する作風が特徴。

ハタヤママサオさんオフィシャルサイト
www.hatamaniaworks.com



大阪サーフトリップ(2013年)

4月1日
より

関西・大阪21世紀協会は下記へ移転します。

※電話・FAX番号も変わります。

新事務所

〒530-6691
大阪市北区中之島6丁目2番27号 中之島センタービル29階

TEL (06) 7507-2001

FAX (06) 7507-5945

アクセス

市バス	JR大阪駅前から53番(船津橋行)終点船津橋下車すぐ 淀屋橋から88番(天保山行)土佐堀三丁目下車 徒歩約3分
京阪電車	中之島線「中之島」駅下車 徒歩約5分
地下鉄	阿波座駅下車9番出口 徒歩約7分
JR環状線	野田駅下車 徒歩約10分
お車ご利用の場合	阪神高速神戸線中之島西出口



関西・大阪21世紀協会賛助会員へ 入会のお願い

関西・大阪の活性化のため、皆様のご支援をお願いします。

会費(何口からでも結構です)

- 法人会員一口につき年会費10万円
- 個人会員一口につき年会費1万円

お問合せ (公財)関西・大阪21世紀協会 総務部

特典

1. 協会が発行する刊行物の配布
2. 協会が主催する各種セミナーなどへの案内
3. 賛助会員の参考となる情報・資料の提供など